

コンテナ遅れについてのご報告

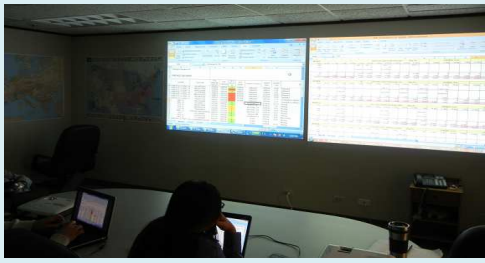
昨年よりコンテナの遅れが発生し、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。
 今月に入り、やっとシカゴ倉庫に適正在庫を持つことができました。
 これもひとえに仕入先様、工場の皆様のご協力のおかげです。
 2月10日の日経新聞にシカゴの様子が載っておりますので、
 ご参考までにHPにアップします。

【第三种郵便物認可】

記録的な寒波に見舞われた米国で、経済的な影響が深刻さを増している。製造業が集積する中西部では鉄道の物流が滞り、小売店の休業や建設工事の中断も頻発している。暖房費の急増が個人消費に水を差すとの懸念も強まっている。

米天候コンサルタント会社のプラナリティクスは、1月から2月初めまでの寒波による経済的な影響が100億ドル（約1兆円）を超えたと試算した。

小売店の休業や工事の中断など「生産性の低下」によるコストが約50億ドルに上るほか、航空業界で4万9千便もの欠航や遅延による被害額が約25億



TAIKI USA のスタッフ達が定期会議で、入念にコンテナの到着状況や、客先の使用予測を確認し、客先納期に遅れないように、アジア各拠点に最新情報や出荷指示を発信しています。



米寒波、コスト1兆円超



物流停滞、小売店が休業…

気温の低下による暖房コストも大幅に増えていると分析する。

特に、寒波の影響を大きく受けているのが物流の寸断だ。製造業が集まる中西部では、鉄道輸送

の拠点であるシカゴで1月末に厳しい寒波が再来。貨物を積み込む作業員が働くことができなかったため、貨物業務が2日間できなかつた。

鉄道に加えて「シカゴのトラック運転手の9割が道路凍結による事故防止のため休業した」（丸

氏「今年の寒波は企業にとって厳しい状況を招いた。そのため、鉄道かトラックへの貨物の移動の遅延は最高5営業日程度に上っているとい

寒波の再来で米中西部では製造業に影響が出ている（4日、ミズーリ州）ロイター

暖房費増、家計の重荷に

一部の企業は物流寸断への対応に動き始めた。シカゴにある日系自動車部品会社のタイキ・USAは、寒波による部品輸送の遅れが最大2週間に達した。同社は納期に間に合わせるため、一部製品の出荷を船便から航空便に切り替えた。

寒波で従業員の出勤がままならず、操業停止に追い込まれた企業も少なくない。クボタ・エンジン・アメリカ（シカゴ）は1月だけで、寒波のために2日間の休業を余儀なくされた。

プラナリティクス社のゴールド上級副社長は、米国景気の足を引っ張る要因として暖房費の増加にも注目する。1月は米

一部の企業は物流寸断への対応に動き始めた。シカゴにある日系自動車部品会社のタイキ・USAは、寒波による部品輸送の遅れが最大2週間に達した。同社は納期に間に合わせるため、一部製品の出荷を船便から航空便に切り替えた。

一方、中西部が主産地である穀物の運輸に関しては、寒波の影響は限定的にとどまるもよう。気温の低下により農家の出荷が鈍ったり、穀物加工場の機械の故障が頻発したりする問題は出ていない。「深刻な問題には発展していない」（シカゴ）野毛洋子

Matt-VPが日経の記者のインタビューを受けて、答えた内容です。本来はもっとたくさんの情報でしたが、このようにまとめられています。

